



## 残そう・伝えよう！身近な生きもの調査事業

テーマ：「佐分利川の生きもの調査」

実施校：本郷小学校（おおい町）

里山里海湖研究所では、県内の小学校が実施している生きもの調査や保全活動を支援する「残そう・伝えよう！身近な生きもの調査事業」を実施しています。対象となる小学校に対して、学校専任アドバイザーの派遣、調査に必要な経費の助成、活動を円滑に進めるためのコーディネーターの派遣を行い、身近な生きもの調査・保全活動が継続的に実施されることを目的としています。

このほど対象校の1つ、おおい町の本郷小学校の今年度最初の活動が行われました。

本郷小学校では、5年生児童が総合的な学習の時間に「佐分利川の生きもの調査」をテーマに、学校の前を流れる佐分利川について学習を進めています。

この日は、まず、学校専任アドバイザーの萩原 茂男さん（NPO 法人森林楽校森んこ代表）から今年1年間の計画と佐分利川についての講義を受けました。

電子黒板に映し出された地図を使って、本郷小学校から河口までの距離が約1.3kmであること、河口から最上流部までおよそ17kmで、近くを流れる南川の約半分ほどの短い河川であることを確認しました。



また、「川ってどんなところ？」という萩原さんの問いかけに、児童からは、「水がある」、「魚がいる」、「流れている」など活発に発言していました。また、「人にとってどんな役に立っている？」という問いかけには、「田んぼの水に利用され、お米づくりに役立っている」というような発言があり、川をより身近に感じることができていたようです。

次に佐分利川の様子を観察しに出かけました。普段何気なく見ている川も、「流域に何かある」という視点を与えられたことにより、「川の中に大きな魚（コイ）の影が見える」、「違う模様のツバメ（イワツバメ）がいた」、「草がたくさん生えている」、「思ったより流れがゆるやか」といった数多くの発見をしていました。発見したことは、教室に戻ってから付せんに書いてまとめました。



次回は、7月に実際に川に入って、どのような生きものが生息しているか調査を行う予定です。

これを機会に、ふるさと福井の豊かな自然について興味・関心を高め、大切にしていこうとする気持ちを育ててもらいたいと思っています。